

# 名門・日本フィルの新航路 首席指揮者と描くブラームスの真髓!!



© 山口敦  
日本フィルハーモニー交響楽団



© 吉田タカユキ  
ピエタリ・インキネン



© 武藤章  
田村響



真鍋恵子

## 【公演情報】 「ピエタリ・インキネン ブラームス・ツィクルス」

第689回東京定期演奏会  
(ブラームス・ツィクルスI)  
4月14日(金)19時開演 / 15日(土)14時開演  
Bunkamuraオーチャードホール  
演目/ブラームス:交響曲第3&4番

第326回横浜定期演奏会  
(ブラームス・ツィクルスII)  
4月22日(土)18時開演 横浜みなとみらいホール  
演目/ニールセン:フルート協奏曲、  
ブラームス:交響曲第2番 他  
共演/真鍋恵子(フルート)

第327回横浜定期演奏会  
(ブラームス・ツィクルスIII)  
5月20日(土)18時開演 横浜みなとみらいホール  
演目/リスト:ピアノ協奏曲第1番、  
ブラームス:交響曲第1番 他  
共演/田村響(ピアノ)

S席:7,200円 A席:6,000円 B席:5,200円  
C席:4,200円 P席:3,200円 Ys席:1,500円  
※第327回横浜定期は、B&C&P席が完売

主なチケット販売窓口:  
■日本フィル・サービスセンター  
tel:03-537-5911(平日10~17時)  
fax:03-5378-6161(24時間)

## 東京と横浜で計4公演を開催

日本を代表する名門楽団のひとつで、昨年創立60周年を迎えた日本フィルハーモニー交響楽団。この記念の年に、同フィルは新たな首席指揮者にピエタリ・インキネンを迎え、新たな航海へと出発。1980年フィンランド生まれの彼は、母国のシベリウスを中心に、知的で見通しのよい解釈が好評を博してきた。そんなインキネンが、今年4~5月に東京と横浜で計4回の「ブラームス・ツィクルス」を開催する。

日本フィルとのブラームスは、インキネンが長年望んでいたプログラム。インタビュでも、「責任あるシエフへの就任に際し、ドイツ・ロマン派の音楽を提案しました。ブラームスは基本であり、すべて。楽団の向上に必要です」と語っている。

4月14&15日に東京で行う「ツィクルスI(第689回東京定期)」の演目は、勇壮さとロマンティックな美しさを備えた交響曲第3番と、峻厳さの中に哀愁が滲む第4番。その後は横浜

に舞台を移し、4月22日の「ツィクルスII(第326回横浜定期)」では輝かしい二長調で書かれた第2番を、5月20日の「ツィクルスIII(第327回横浜定期)」では「ベートーヴェンの交響曲第10番」とも称えられる第1番を、各々演奏する。インキネンはヴァイオリニスト出身ということもあり、これまでにシベリウスやマーラー、ワーグナーなどで見せてきた瑞々しく透明度の高い音楽作りが特長。それが今回のブラームスでどのように花開くか楽しみだ。

## 2人の若手実力派ソリスト による協奏曲も期待大

また、横浜の2公演は、2人のソリストが奏でる協奏曲も大きな聴きどころ。

まず、「第326回横浜定期」では、同フィルの首席フルート奏者・真鍋恵子が登場し、本人が選曲したニールセンの協奏曲を演奏。2楽章形式の室内乐的な本作を、真鍋は気心知れた仲間たちと、艶のある美音で親密に織り上げることだろう。

そして、「第327回横浜定期」の演目、リストのピアノ協奏曲第1番でソリストを務めるのが、日本を代表する若手実力派・田村響。田村はリストの作品を演奏会や録音で度々取り上げていることもあり、このきらびやかな4楽章からなる名曲でも、烈しい情熱を内に秘めた重厚で格調の高い演奏を聴かせてくれるに違いない。若き俊才指揮者と日本フィルの新航路は、麗らかな春の東京と横浜で、間もなくその威容を現す。